



5月12日（火）
 「心と体と性のはなし」
 ～保育で守る子どもの人権～
 講師 ヨリヨク助産院 脇本 薫 さん

□乳幼児期の関わりが「自分を守る力」を育てる

性教育というと、思春期や妊娠の話しを思い浮かべる方も多いかもしれません。しかし、今日本で注目され始めている性教育は「包括的教育（CSE）」と言って、単に体や生殖の知識を学ぶことではありません。

- ・自分のからだを大切にすること
- ・人との関わり方を学ぶこと
- ・価値観の違いを尊重すること
- ・自分と他者権利を守ること

つまり、「自分らしく、他者とともに生きる力」を育む人権教育です。その土台が、実は乳幼児期の関わりの中にあります。



□保育の中にある「ジェンダー」を考えてみる

乳幼児期の子どもは周囲の大人の言葉や態度をたくさん吸収する時期です。だからこそ、保育の中の何気ない関わりも、子どもの「自分らしさ」や「人権」と深くつながっています。

「あなたは どうしたい?」「あなたは 何が好き?」を大切にできる関わりが、子どもの安心の土台や自分は自分でいいんだ、という自己肯定感につながっていきます。



感想

「男らしさ」「女らしさ」ではなく、子どもの「好き」を尊重しよう。好きなこと、嫌なこと、やること、やらないことも「自分で決める」経験が将来の自分を守るということがわかった。

乳児だからと大人の考えで援助をしすぎていないか見直し、ひとつずつ丁寧に子どもに問い寄り添うことが大切だとわかった。

性教育は、まさに人権教育であることがわかった。

いつも子どもと対話したい

小さいころから自分を大切にすることで、自分の、体の大切さにも気づけることがわかった。それが、他の人をも大切にすることにつながる。



包括的性教育は、一度聞いて終わりではなく、日々の関わりの中で、大人も迷ったり悩んだりしながら試行錯誤していくものだと思います。私自身もその中の一人です。だからこそ、困ったときはひとりで抱え込まず、ぜひ、専門家も頼ってくださいね。

